

当院では、「開業小児科医が外来で遭遇する 重要疾患の経験数調査」を実施しています

子どもの病気には様々なものがあります。

私たち小児科医は、「かぜ」のようなありふれた病気の中に、
見落としとしてはいけない重要疾患を見つけなければなりません。

近年ワクチンの開発や環境の変化、新型コロナウイルスの流行などにより、
こどもの病気も様変わりしてきました。



近畿外来小児科学研究グループでは、

過去2回（第1期調査 2002年～2003年、第2期調査 2013年～2014年）
重要疾患の経験数調査を行ってきました。

このたび、第3期調査（2025年～2027年）に当院も参加することとしました。

この調査では、来院されたお子さんの中に、対象疾患（化膿性髄膜炎など15種類の疾患）を
見つけたときに、年齢と性別をカウントするものです。

氏名や住所などの個人情報収集されることはなく、通常診療と同じで特別な検査や治療を
行うものではありません。

結果は他の医療機関の結果と合わせて集計し、過去2回の結果と比較して検討し、
学会や論文として発表する予定です。

この調査に質問がある方、調査対象となることに同意されない方は医師におっしゃってください。
これにより不利益を被ることはありません。